

「地域と連携した防災教育」

平成 26 年度 高知県実践的防災教育推進事業 拠点校 佐川町立黒岩小学校

I 学校における背景、問題意識

黒岩小学校は、海から離れ、海拔 67m に位置する。校区の多くは、土砂災害警戒区域に指定されている。また、台風や大雨の度に学校前の柳瀬川の水位が増し、通学路である県道が水没する地域でもある。学校は、平成 23 年度に校舎の耐震工事及び大規模改修が行われ、避難所に指定されている。

学校は、地震・土砂災害・水害が重なることを想定し、危機意識を持って、避難訓練（年間 5 回）と危機管理研修会（児童・保護者・教職員対象）を行ってきた。

また、平成 25 年度には文部科学省指定防災キャンプ推進事業「防災キャンプ in 黒岩」を開催した。この防災キャンプの特徴は、①黒岩保育園・黒岩小学校・黒岩中学校が連携して行うこと、②自主防災組織をはじめとする地域の団体や近隣の住民の方々のお力添えをいただくことの 2 点にあった。2 泊 3 日の防災キャンプの中で、学校を避難所とした生活など、様々な防災教育プログラムを実践することにより、児童は防災に関する知識を得るとともに、非常時に地域の方と協力して適切に行動しようとする意識が育ってきた。

また、防災キャンプを実施したことで、保護者並びに地域の方々の意識に変容が見られた。「子どもに負けんように勉強をせんといかんねえ」という声も届いている。

「防災キャンプ in 黒岩」での学びを発展させ、「今」、地域と連携した防災教育を進めることが、非常時に適切に行動できる児童を育てるとともに、地域の防災意識を高める一助となると考える。

II 取組のポイント

◆全児童・保護者の意識調査を行い、その

結果を防災教育に反映させる。年度末には再度意識調査を行い、1 年間の防災教育を検証する。

◆児童が主体的に行動できるよう、様々な場面を想定した避難訓練を行う。

①登下校中、授業中、休み時間、掃除中、放課後等

②Jアラートの活用

③黒岩中央保育所や放課後子ども教室との合同実施

◆地域の方々の支援のもと、校区（通学路や自宅周辺）の安全点検をし、避難行動のあり方、地域の防災活動や防災施設等を学び、防災マップを修正する。

◆全学年が「地震・津波・防災」に関する授業研究を行う。

◆夏季休業中に、教職員が宮城県に視察に行き、震災当時の学校の動きや防災教育カリキュラムに学ぶ。

◆佐川町総合防災訓練に全児童・教職員が参加し、様々な防災活動の体験を重ねる。

①避難訓練（自主防災組織・黒岩地区消防団による誘導）

②地域住民と防災活動への参加

（炊き出し訓練・起震車体験・降雨体験・応急救護訓練等）

③児童引き渡し訓練

④避難所開設・運営訓練への参加

◆防災教育研究発表会を開催し、1 年間の取組を検証。次年度の防災教育カリキュラムに活かす。

III 取組の概要

1 防災に関する指導方法の開発・普及

(1) 実践的な避難訓練の実施

巨大地震がいつどこで発生しても、自分で判断して行動し、自分の命を守ることができることをねらいに、様々な場面（授業中、休み時間、通学途中、昼休み、放課後、掃除中等）を想定した避難訓練

を行った。子どもたちは回を重ねるごとにJアラートの音や緊急放送に敏感に反応し、「落ちてこない、倒れてこない、移動してこない」場所に身を寄せることを原則に、教室では机の下に入り対角線に机の脚を持ち、教室以外ではダンゴムシのポーズをとる等、自分の頭を守る行動がとれるようになってきている。



【保育園と合同】 避難を手助けする職員



【遠足の時】

(2) 防災マップづくり

昨年度に作成した防災マップの見直しや児童の防災意識を高めることをねらいに、通学路を中心に6つの班に分かれて防災教育推進委員や保護者、地域の方々と一緒に歩き、危険箇所や避難場所を確かめた。

その後、それぞれの地域ごとに防災マップを作成した。防災マップには地域の方々や児童の声をまとめ、危険箇所（塀が高い場所、以前に土砂崩れがあった場所、建造物が倒れてきそうな場所等）や一時避難場所として逃げる場所、主な建物や児童の住居等が記されている。また、赤い付箋には地震が起きたときの状況を予想した内容を、黄色の付箋には対処方法を記入し、実際の場所が分かりやすいように写真も使って作成した。

通学路等の状況が日々変わっていくことを前提に、防災マップの見直しを毎年していく予定である。



【危険箇所の確認】



【避難する子どもたち】



【防災マップづくり】



【防災マップ】

(3) 防災の授業

「高知県安全教育プログラム」の展開例を参考に地域に応じた内容に工夫し、ペープサートや映像を取り入れて、子どもの興味・関心を高めながら授業を行った。また、防災の授業を校内研修に位置付け、講師を招聘して行った。



【5年生授業「災害と情報」の様子】

2 地域や防災関係機関等との連携

(1) 佐川町総合防災訓練

黒岩小学校を会場として、佐川町地域住民等、400名以上が参加して行われた

「佐川町総合防災訓練」に黒岩小学校も黒岩中学校や保育所と一緒に参加した。町内一斉の避難訓練や応急救護訓練、初期消火訓練や炊き出し訓練等、多くの関係機関が協力して訓練が行われ、児童は起震車による揺れ体験、降雨体験、土砂災害体験シアター、応急救護訓練などのたくさんの体験学習を行うことができた。また、児童を保護者に渡す「引き渡し訓練」も行った。本年度は、学年ごとに担当教職員を決めて行い、スムーズに保護者に児童を引き渡すことができた。



【応急救護訓練】



【引き渡し訓練】

(2) 防災教育推進委員会

地域が一体となった防災教育を進めることをねらいに、オブザーバーに岡村眞高知大学 特任教授を迎え、県・佐川町教委、佐川町防災担当、自主防災組織、学校、保育園等の代表が委員として参加し、防災教育の取組について協議・推進する「防災教育推進委員会」を3回開いた。

会では、黒岩小学校や黒岩地区の防災教育の進め方について真剣な協議がなされ、通学路の安全点検にもたくさんの推進委員の参加があり、地域の防災教育への関心の高さを改めて感じた。



【防災教育推進委員会】

(3) 防災家族会議

児童が学校で学習したことを家庭でも話題にしたり、家族と一緒に防災について確認したりする機会として防災家族会議を各家庭で開いてもらった。話し合う内容は、引き渡しカード（子どもを迎えに行く人）や家族の避難場所の確認、家族で決めた約束や防災チェックシートへの記入等である。

家族防災会議での話し合いを通して、家具の固定を子どもの依頼により行ったり、非常持ち出し袋の中身を充実させたりと、我が家の防災対策に積極的に取り組む姿勢が見られはじめている。



【家族防災会議】

IV 成果と今後の取組

1 取組における成果

- 講師を招聘しての授業研究に取り組むことにより、防災教育の指導方法や教育方法の研究を深めることができた。
- 佐川町総合防災訓練に参加することにより、家庭、地域、防災関連機関との連携を図り、地域をあげて防災教育に取り組むことができた。
- 授業、休み時間、登校中等の様々な場面を想定した避難訓練に取り組み、児童は、安全な身の守り方（ダンゴムシのポーズ等）や素早い避難の仕方を身に付けることができるようになった。
- 防災標語や防災ポスター、防災はがき新聞等の取組は、児童の防災意識を高めるのに効果的であった。
- 地域の方々から黒岩地区で起きた災害について聞き取りをしたり、一緒に防災マップづくりに取り組んだりする中で、子どもたちの土砂災害に対する意識が高まった。

2 今後に向けて

- 児童が自分で判断して行動することができることを目指して、今後も様々な場面を想定した避難訓練に予告なしで取り組んでいく。
- 防災教育を「生活科」や「総合的な学習の時間」、「学級活動」などに位置付け、実践後の反省点をもとに、さらに改善していく研究体制を整えていく。
- 地域とのつながりを継続・発展させ、今後も地域や関係機関と連携した防災教育に取り組んでいく。
- 避難所としての機能を高めるため、自家発電機や投光器等の設備、水や食料等の備蓄品の充実を図っていく。また、避難所開設運営のノウハウを学ぶ研修会を開催し、教職員としての役割について考えそのスキルを身に付けていく。
- 防災教育を進めていくうえで、映像の力は大きく、効果的であるため、視覚教材を充実させていく。